

MONEX Retail Investor Survey



MONEX 個人投資家サーベイ 2011年7月調査

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2011年7月22日～7月25日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。

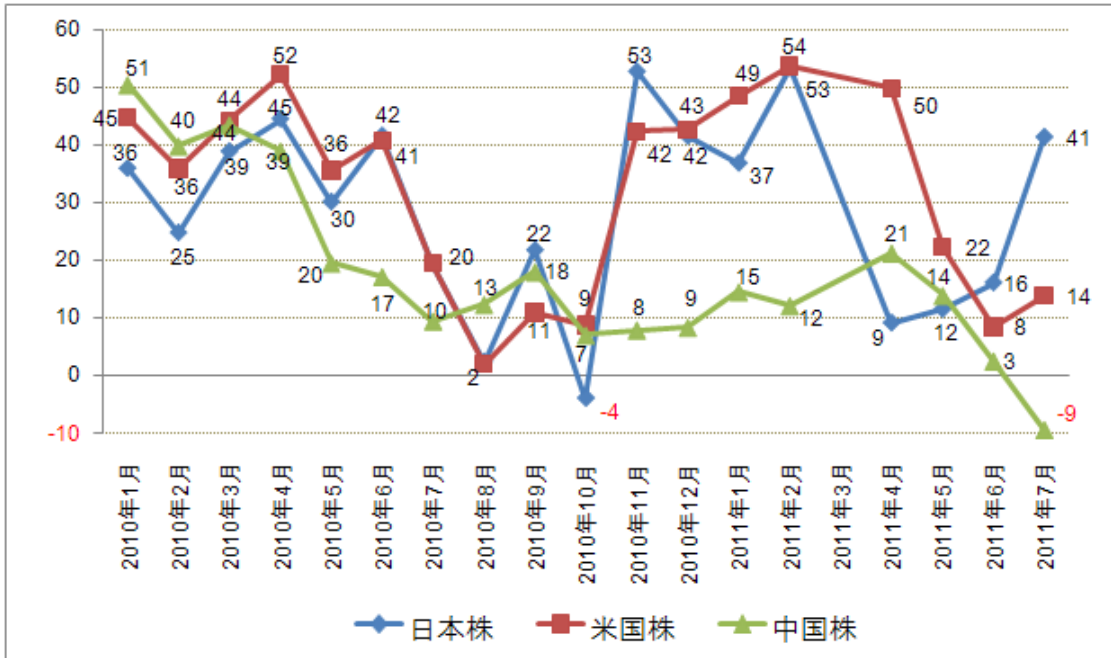
(※2011年3月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施していません。)

また、2011年6月より、グループ企業であるトレードステーション証券(米国)、マネックスBOOM証券(香港)の個人投資家の皆様にも、四半期ごとに同様のアンケートを行い、調査結果を「MONEX グローバル投資家サーベイ」として提供しております。

■ 調査結果

1 株式市場を取り巻く環境について

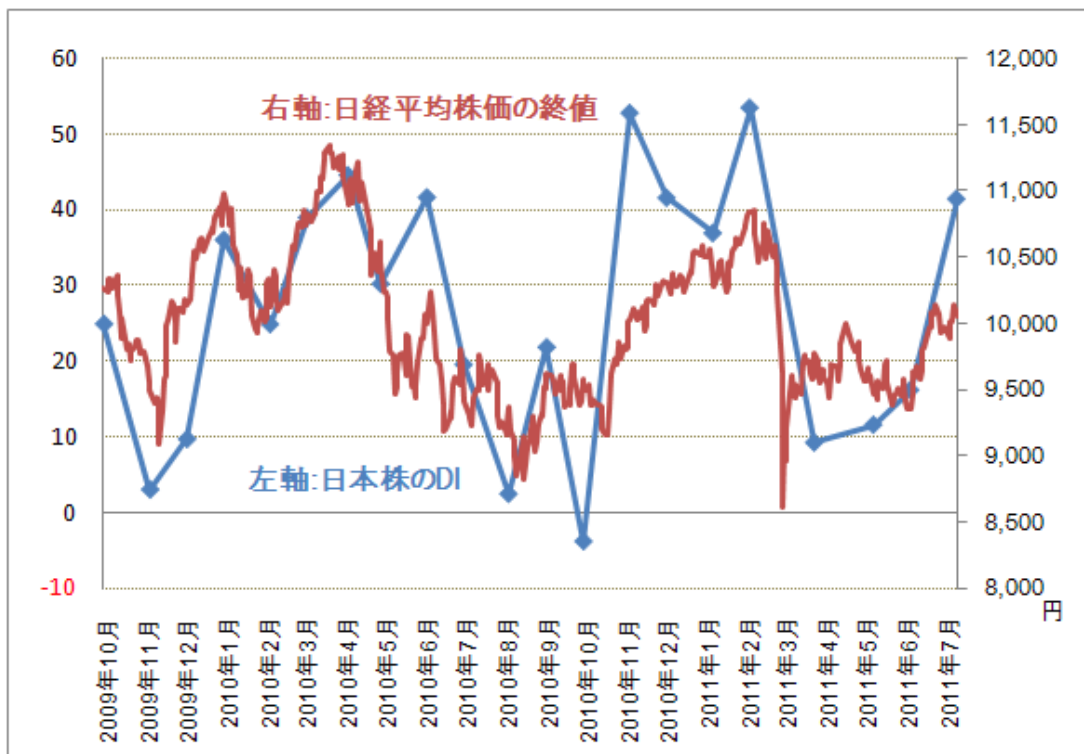
(1) 今後3ヶ月程度の株価予想（日本株、米国株、中国株のDI推移） グラフ①



日本株のDI (※) は41と前月から25ポイントも上昇しました。米国株も14と6ポイント上昇しましたが、中国株は前月の3から更に下げ、過去最低の-9をマークしています。

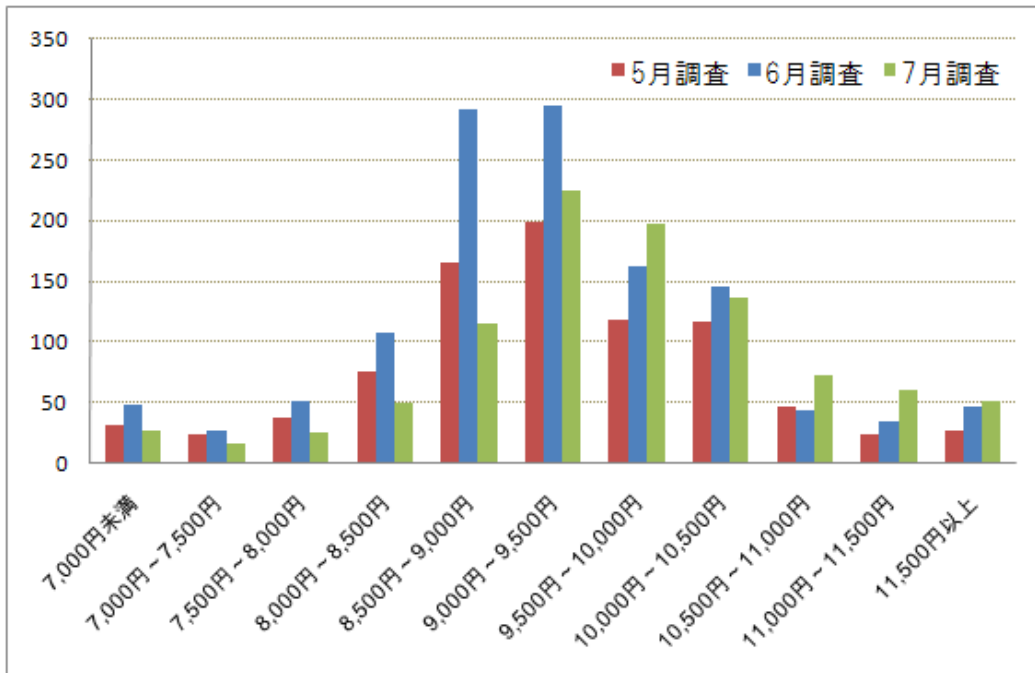
(※DI: 「上昇する」と回答した%から「下落する」と回答した%を引いたポイント)

日経平均株価（終値）と日本株DIの推移 グラフ②



(2) 日本株を買いたい水準

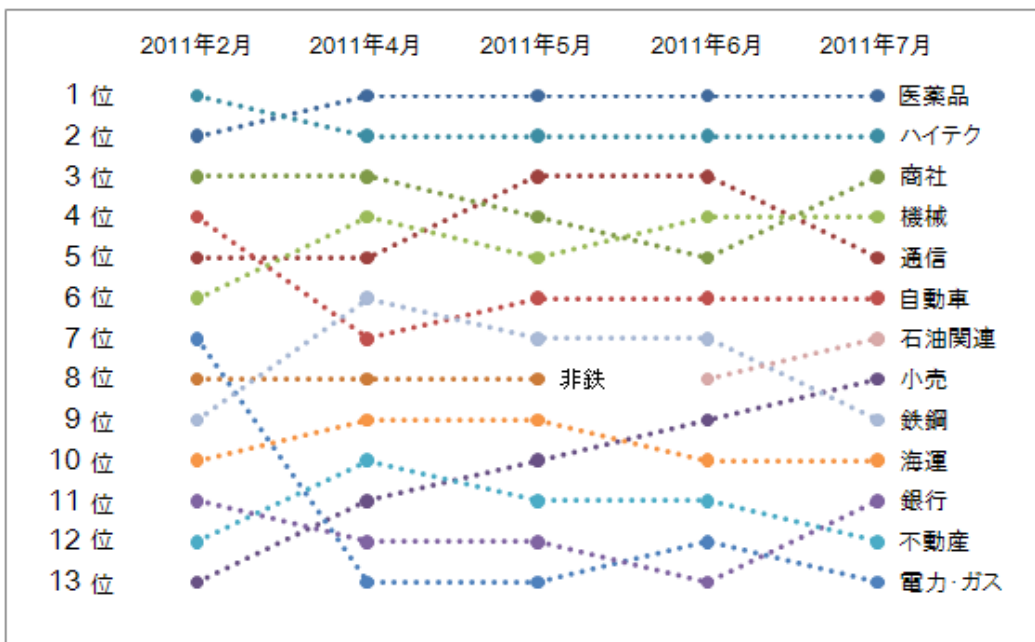
日経平均株価がどの水準であれば、日本株を買いたいと思うか グラフ③



日経平均株価の上昇とともに、日本株を買いたい水準を9,000円～10,000円とする回答が増加しました。

(3) 日本市場の各業種に対する今後3ヶ月程度の見通し

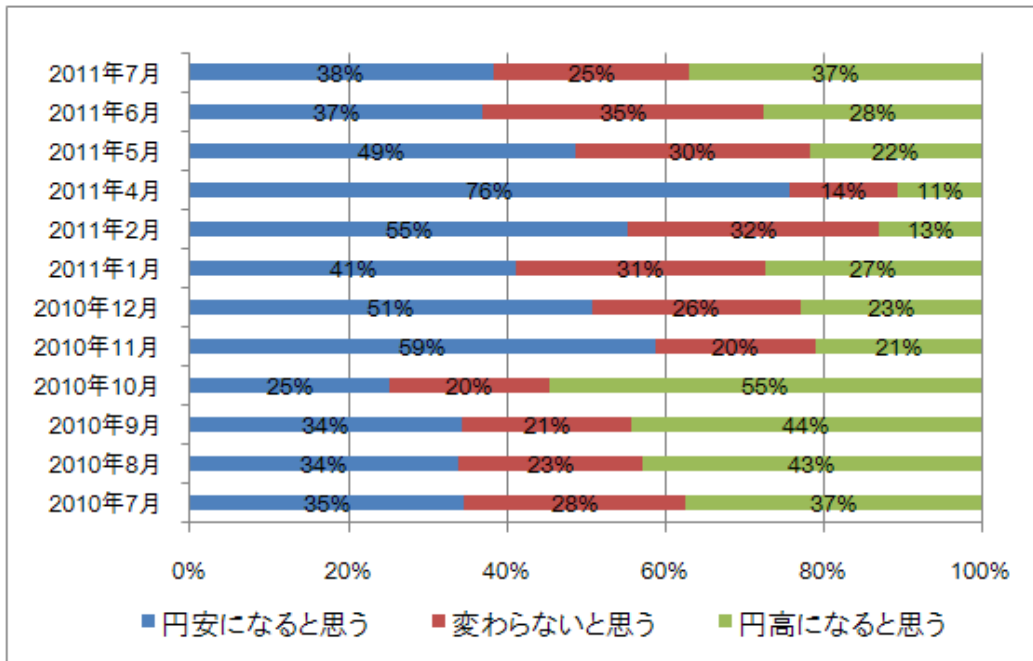
日本投資家の「魅力的であると思う業種」ランキング グラフ④



1位の医薬品、2位のハイテクは今月も健在。3位には商社が上昇し、前月3位の通信と入れ替わりました。8位の小売は2011年2月以降、着実に順位を上げています。前月最下位の銀行は11位に上昇し、不動産、電力・ガスが順位を下げました。

2 為替市場について

今後の3ヶ月程度の米ドル/円相場予想 グラフ⑤



円安を予想する割合は前月とほぼ変わらず38%であったのに対し、円高を予想する割合が37%に増加し、円安、円高とも同等の割合になりました。

3 お客様の日本株取引について

今後3ヶ月の投資意欲について グラフ⑥



投資意欲のDI (※) は前回調査結果の5から25へと大幅に上昇しました。(※DI: 売買頻度を増やしたいと回答した%から売買頻度を減らしたいと回答した%を引いたポイント)

■ 総括

マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆

今回の調査期間である 22～25 日は、米国で連邦債務上限の引き上げ交渉が難航し、米国債のデフォルト（債務不履行）リスクが高まった時期にあたります。ドルが全面安となり円相場も円高が進む過程にありました。こうした外部環境であれば日本株の先行きに対しても警戒的な見通しが大勢を占めてもおかしくない状況でしたが、実際の回答結果は日本株の DI が前月の 16 から 41 へと急上昇しました（グラフ①）。

調査開始直前に、米国の債務問題が決着しそうとの楽観的見方が一時浮上し、ニューヨーク・ダウ平均が 150 ドル超上昇したことも影響しているのかもしれませんが、それにしても大きな改善です。DI 上昇の最たる理由は日本株の値動き自体であると考えます。「相場のことは相場に聞け」と言いますが、これだけの円高進行かつ米国債のデフォルト懸念という悪材料を目の当たりにしても日経平均は 10,000 円の大台を割らずに底堅く推移しているという事実が、相場の先行きに対して強気の見通しを醸成させたのではないかと考えられます。

4-6 月期の決算発表が今週から本格化していますが、好業績期待も背景にあるでしょう。円高の影響をあまり受けない内需株主導で堅調な相場が牽引されてきたという物色傾向も一因に挙げられます。業種別の魅力度を尋ねる質問への回答を見ると「小売」が 4 ヶ月連続で順位を上げトップ 10 に入ってきたのが目を引きまします（グラフ④）。小売株指数（東証 33 業種）は既に震災前の高値を更新して年初来高値を伺う水準にあります。小売に代表される内需株が牽引してきた相場だけに円高や海外市場の不透明感がそれほどの弱気材料にならなかったと言えます。

これまでの調査で日本株の DI の改善度が最も大きかったのは 2010 年 10 月の -4 から 11 月の 53 です（グラフ①）。ちょうど米国で QE2（量的緩和の第 2 弾）が始まった時期にあたります。株式相場はそこから今年の 2 月まで上昇基調を辿りました。今後、日本株市場が上昇すれば個人投資家の DI の改善が相場の先行指標となり得る可能性が高まります。

一方、中国株の DI が -9 と大きく落ち込みました（グラフ①）。個人投資家サーベイではこれまで DI がマイナスになることは滅多になかっただけに目立つ結果となりました。中国株の DI は 4 月の 21 を直近のピークとして 3 ヶ月連続で下げ今回初のマイナス圏へ沈みました。上海総合株価指数も 4 月をピークに 6 月下旬まで大きく下げていましたが足元では切り返していただけに今月の DI 低下は株価との連動性が薄れた格好です。この点も興味深く、今後の相場展開を注意深く見守っていきたいと思います。

(マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆)

■ 調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家
 回答数： 1,041 件
 調査期間： 2011 年 7 月 22 日～7 月 25 日

【性別】

男性	女性
82.9%	17.1%

【年齢】

未成年	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳超
0.5%	4.7%	25.9%	30.5%	19.1%	13.4%	6.0%

【金融資産】

500 万未満	500 万 ～1000 万	1000 万 ～2000 万	2000 万 ～5000 万	5000 万 ～1 億	1 億以上
30.9%	21.4%	20.2%	18.2%	5.9%	3.5%

【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
5.2%	12.9%	27.0%	30.9%	24.0%

【株式投資のご経験】

1 年未満	2 年～5 年	5 年～10 年	10 年以上
7.2%	26.5%	29.6%	36.7%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではなく、また示唆するものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 165 号
 加入協会：日本証券業協会、（社）金融先物取引業協会